

モーダルシフトは1991年に当時の運輸省、現在の国土交通省がその前年である1990年に運輸政策審議会物流部会より労働不足対策として提言されたことを受け、推進を明言してから35年が経過しています。また2024年のドライバーに対する労働時間上限徹底を受け、ドライバー不足の拍車と物流業界自体の労働不足が加速し、更なる推進が叫ばれています。

しかし、特に日本における鉄道輸送へのモーダルシフトは輸送品質に対する不安が大きく、特に東日本大震災後、船舶にシフトしたのち、船舶輸送のほうが輸送品質は高いことから鉄道輸送に戻る件数は鈍く、鉄道輸送の輸送品質による懸念が問題となっています。

ここでは日本の鉄道輸送環境をトラック輸送と比較することで、鉄道輸送環境への理解と、鉄道へのモーダルシフトを検討されている方へ、包装や品質対策への参考となるよう鉄道輸送環境の実態を解説させていただきます。

**【講座内容】**

1. 日本の鉄道輸送について
2. トラック輸送と比較する振動衝撃
3. 鉄道輸送の特徴
4. 鉄道輸送を行うには

**お問い合わせ先**

日本コンサルタント協会(JPCA)

講座担当（中嶋理志）      Email:[nakajima\\_pttc@east.cts.ne.jp](mailto:nakajima_pttc@east.cts.ne.jp)